

# 日鉄住金マネジメント株式会社 安全体感教育研修

山口 貴幸 環境・建設技術分野

野田 浩平 電気・電子情報技術分野

## 1. はじめに

技術職員としての日常業務における安全管理の知識や手法を学ぶことを目的とし、日鉄住金マネジメント株式会社鹿島教育事業部テクノプラザで平成 27 年 2 月 25 日に開催された安全体感教育に参加した。種々の作業現場で発生する可能性のある事故や災害の疑似体感を通して安全について学んだ。

## 2. 研修内容

講習参加人数は 20 名程度で、10 人程度のグループ 2 つに分けて以下の項目について講習が実施された。

### ①回転体危険体感

回転体巻込まれ危険体感では、体の代わりに竹や段ボールを使用して、巻込まれ時の引き込まれ方などを体感し、回転体の危険について学んだ。

### ②その他危険体感

その他危険体感では、重量物運搬時の腰痛の危険、正しい姿勢で重量物を持ち上げる必要性について学んだ。また、溶接ヒューム危険体感にて、溶接作業時に装着するマスクのフィルターにどのくらい粉塵が付着するか確認し、マスクの重要性を学んだ。

### ③玉掛け作業危険体感

玉掛け作業危険体感では、1 本吊やチェンブロック操作不備などで発生する、ワイヤーの切断や荷崩れなどを体感した。また、荷崩れする際に落下物がどこに落下してくるか等を実際に確認し

作業する場合の安全位置について学んだ。

### ④高所危険体感

高所危険体感では、始めに安全帯を正しく装着した際と正しく装着できていない場合の体への負荷を体感し、正しい安全帯の使用方法について体感した。さらに、高所からの落下物がどれくらいの力になるか実際に落下を見学した。

### ⑤電気危険体感

電気危険体感では、実際に人体に影響の無い程度の電気に感電し、感電の危険について学んだ。また、漏電による感電の危険や機器への影響、タコ足配線による過電流火災の危険性などを実際に体感した。また、高圧電気については、直接接触れなくとも周囲に近づくことで感電してしまうことや、電源を Off にした後も、一定時間は帯電したままとなっていることを実際に体感した。

## 3. 研修成果

本研修を通して、普段の業務で何気なく実施している事柄の危険について再確認することができた。実際に体感することで安全管理に対する意識をより強く持つことができた。そして、今回体感していない作業や業務についてももう一度安全について考えて作業する必要があることを改めて認識した。

技術職員として実験や研究の安全管理、衛生巡視や w-SDS 等に今回体感して学んだ知識や教訓を取り入れ今後の業務に取り組みたい。